

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670100078		
法人名	七野会		
事業所名	グループホーム はつね		
所在地	京都市北区小山下初音町24		
自己評価作成日	2013年8月18日	評価結果市町村受理日	平成25年 11月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=2670100078-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年 9月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく、地域と共に」をモットーに、1999年7月より介護保険スタート前から開設、ボランティアさん、地域の協力の元、家庭的な雰囲気です。9名の認知症ケアにあたっている。季節を感じられる行事や食事、皆で楽しみながら取り組む姿勢、利用者本位で考えられるよう、日々切磋琢磨し援助に取り組んでいる。「家庭的(共に泣いたり、怒ったり、笑ったり)に、当たり前の生活」を大切にしている。また、医療行為の法令改訂による限られた中で、どこまで入居者が望む最期・生活をお手伝いできるか、悩みつつも取り組んでいる。地域に社会資源として還元できないかと、毎月地域に住むお年寄りを招いて行う「ふれあいサロン」も11年目となった。参加・定着率は高く、加齢と共に変わりゆく状態をサロンを通じて把握し、民生委員さんと共に支えていく取り組みも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コーポラティブハウスの一階にある当該事業所では、利用者が地域の中でどのような生活ができるかを常に考え支援しています。昨年に開催した花火大会には周辺の子どもや地域高齢者の参加があり、デイサービスとの共同で行われる毎月のサロンではボランティアによる昼食サービスも行われ、地域交流が図られています。日々の食事も大切に考え、利用者の嚙下の状況に合わせ、家族の要望を踏まえつつ利用者本位の姿勢を持ち、食と健康についてや食べる意欲に繋げるための検討を重ねるなど、利用者の生活の質の向上に向けて支援しています。運営推進会議では、消防署や社会福祉協議会等からも参加が得られるようになり、様々な意見や助言をもらい地域に根差した事業所となれるよう前向きに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に、はつね独自の理念を掲げている。職員の顔ぶれ変わっていく中で、誰もが理念に沿ったケアを意識し実践出来るように、日々話し合いながら取り組んでいる。	「その人らしく 地域とともに」と開設時に職員等の意見をもとに理念が作られ、職員は利用者や地域の中でどのように生活できるかを常に話し合っています。毎年振り返るとともに職員会議や運営推進会議でも理念に沿った支援がなされているか確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なるべく地域の商店街で買い物をすることで貢献したり、つながりを深めている。又、町内でのお祭りなど行事があれば声をかけて下さっている。常日頃の挨拶やふれあいサロンの開催、回覧板や地蔵盆・花火大会なども行っている。	町内会に加入し、回覧板で地域情報が届き、地蔵盆や演奏会、運動会など多くの行事に参加しています。事業所の建物全体行事として毎月近所の高齢者を対象としたふれあいサロンの企画があり、交流が図られています。近隣の店でパンや花を買ったり、散歩時には地域の方と挨拶を交わし、中学校から行事に招待されるなどの関わりが日常的に展開されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンを月に一度行っている。又、認知症を抱えるボランティアさんを受け入れており、ずっと続けていただけるように御家族や利用している事業所と連携を取りながら、環境作り配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防署や社協の方にも参加して頂けるようになった。防災に関して、訓練方法や地域の取り組みを教えて頂き、次の訓練や点検に活かしている。ご家族は一部の方だけが参加して下さり、貴重なご意見をいただいている。	会議では、多くの写真で利用者や事業所の様子を伝え、消防署や社会福祉協議会、民生委員等出席者のそれぞれの立場から、一人暮らしの高齢者の状況や詐欺被害などの地域情報が伝えられるとともに、事業所が更に地域に出かけることへの提案などがあり、運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の呼びかけを行っているが、未だ参加には至っていない。	市の窓口には議事録を持参し、運営推進会議への参加依頼をする中で事業所の様子など伝えていますが、地域密着型会議に市職員の出席があり、会議を通じて事業所に対する理解を得ています。今後は困りごとや制度への疑問など更に気軽に話していきたいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを閲覧できるようにしており、職員が理解出来るように取り組んでいる。会議などで、施錠しないための対応法を話し合っている。法人でも学習会を開催しているので、積極的に参加していきたい。	職員は、困った時にはマニュアルに立ち寄り、日々の支援の中で、拘束につながるなどがあれば会議や申し送り時にテーマとして出され話し合っています。玄関は日中解放しており、利用者の外に行きたい様子があれば一緒に出掛けたり、利用者の思いなどを職員間で話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意を払っているし、職員間でも話し合いを行っている。職員間で学習する機会を設けていないので、研修に参加したり学習会を開いていきたい。		

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおられるが、職員が制度を正しく把握しているかは疑問。後見人さんには、サービス担当者会議に出席して頂き、話し合いの場を設けたり、お手紙やお電話で情報の共有化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を設け納得して頂けるように、丁寧に説明を行った上で、同意を得て締結するようにしている。状況に応じて、再度説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からご意見をいただいた際には、個別記録に残して職員間で共有したり上司に報告し、迅速に対応するように努めている。又、介護サービス計画書の見直しやサービス担当者会議にてご意見を伺う機会を設けている。	来訪時や定期的に家族に意向を聞くように努めています。家族から要望を受け、誤嚥のリスクや食と健康について、食べる意欲に繋がるよう検討を重ね、家族とも話し合い改善がみられています。出された意見に対して、より良い方向で検討し改善に向けた取り組みをしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部門会議、年1回のヒヤリングを行い、職員の意見・提案を聞く場を設けている。その他、日常的に意見が出しやすいよう声かけを行い、出来る限り迅速な対応に努めている。	日々の業務の中でも職員は自由に意見を出し合い、その日の出勤者で話し合ったり伝達するなかで共有し、ケアの方法の変更や備品の取り扱いなどの業務改善につなげています。また、法人への意見などには管理者経由で提案し、フィードバックを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれ職員の個性を活かし、やりがいがある職場作りに努めている。しかし、休憩時間の確保が確実には行えておらず、現状維持に留まっており、向上心へと繋がるアプローチは不足している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のケア・力量の把握は行えている。しかし、全ての職員に対して研修への声かけが行えている訳でなく、研修自体に苦手意識を持っている職員に対しての啓発が必要。研修体制・資格取得の際の支援体制は整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同種協議会にて年3回の意見交換の場を設けている。また、京都市内のグループホームへ見学に出向いたり、交換研修も実施している。研修後には、部門会議で報告・意見交換を行っている。		

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に聞き取りを行い、ケースに残している。ご本人・家族からの聞き取り、表情や言動から読み取り、職員で支援・意識統一出来るよう、情報の共有をし、迅速な対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や手紙、電話で報告を行い、要望を聞くようにしている。また、ご家族からより多くの情報・要望を聞ける様、アセスメント表の書式検討を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用されていたサービス事業所に聞き取りを行ったり、ご家族から情報収集を行った上で、状況把握に努めている。また、援助の提案をさせて頂き、職員間で迅速な伝達を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物、買い物など生活を重視し関係作りをしている。その為、暮らしを共にする同士という雰囲気作りが出来ていると感じる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族・ご本人と相談しながら物事を決めるように心がけている。また、ご家族への連絡を希望された際には電話にてお話をしてもらうよう努めている。ご家族の写真を飾ったりいつも身近に感じてもらえるような環境作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のお手伝い、お墓参り、お中元が届いた際にはお礼の連絡をもらえるようアプローチしている。	友人や知人の来訪が時々あり、居室でゆっくり寛いでもらったり、話が弾むように適度に会話に加わるようにしています。墓参りに職員が同行したり、到来物への返事には、写真で喜びを伝えるなどの支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業やゲーム、体操をして関わりを持ってもらっている。孤立しないよう常に意識している。また、自発的に入居者さんがお話されており、職員を介さなくても関わりが持っている。		

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも会いに行ったり、入所時に写した写真をアルバムにしプレゼントしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にコミュニケーションを図りながら把握に努めたり、表情や口調の変化・体調にも留意している。また、モニタリング・ケアプランを見直し、本人に寄り添った支援が出来るよう心掛けている。	入居時には法人の面接シートを利用して、家族同席の上今迄の暮らしや生活を聞き意向の把握に繋げています。入居後には職員が利用者の声を聞き取ったり、家族の来訪時に好みを聞き、また状況によっては以前の利用事業所からも情報を得て思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まだまだ掘り下げていく余地はあるが、入所時や面会時にご家族にお聞きしたり、サービス利用されていた機関からの情報を元に生活環境を整えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々表情・言動から、休息をはかったり、じっくり話を聴いたり、作業の度合いを考慮している。また、毎月部門会議にてケース検討を行い、職員間で意見交換を行い情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度担当介護職にてモニタリングを行い、部門会議にて検討しサービス内容の見直しを行っている。また、3ヶ月に1度、担当者会議を開催。必要に応じて臨時でカンファレンスを行うこともある。	介護計画は、家族、職員の参加を得てサービス担当者会議で検討し作成され、毎月職員でモニタリングを行い変化があれば随時の見直しにつなげています。3か月ごとに見直しを図り、サービス担当者会議は出来る限り家族の参加を得、状況に応じて医師又は看護師の参加を依頼したり意見を聞き反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アプローチ方法の成功・失敗全てを記録に残すことで、より有効な援助が行えたりと情報の共有が出来ている。しかし、一部は記録での情報把握・分析ができておらず、改善の余地がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に支援している。また、以前に行っていたサービスを引き出しの一つとしたり、職員間で論議している。TPOに応じた広い視野を持った支援を目指している。		

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の大型スーパーへの買い物に出掛けたり、大宮商店街での買い物やイベント・植物園外出・小学校からの招待に参加するなど、出来るだけの地域資源を利用し楽しむ機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	はつねのかかりつけ医である診療所から、月3回定期健診に来ていただいている他、急な異変の際にも連絡・相談し、必要に応じて往診に来ていただいている。他に、眼科・精神科・歯科からの往診に来ていただいている。	今迄のかかりつけ医の継続が出来ることを伝え、眼科や皮膚科、精神科など継続されている利用者もいます。協力医による月3度の往診があり、ほとんどの利用者は往診を受けており、24時間の対応が可能な体制を整えています。それぞれの情報は、文章や口頭でのやりとりで家族とも共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、日時に関係なく連絡・相談出来、必要ならば往診に来ていただいている。適切な報告が出来る様、医療連絡簿を作成している。又、2階のデインSによる週2回のバイタル測定も行っており、気軽に相談できる関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話やお見舞いで病院・御家族から情報収集し把握に努めている。状況に応じて、病院・診療所・御家族とカンファレンスも行っている。はつねからも入院先に情報提供を行い、入院中の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議などで、緊急時の対応法や看取りについて聞き取りを行っている。ご家族の揺れ動く思いを支援できるように、診療所とも連携をしてカンファレンスを開催。又、職員間で共有できるように会議などできちんと話し合いを行っている。看取りの指針をご家族に説明させていただいている。	事業所の看取り指針を入居時に伝え、早い段階から思いや意向を聞くようにしています。重度化した時点で家族には再度確認し、短い間隔でカンファレンスを繰り返し、医師との話し合いや家族の意向を聞くなど、看取りに向けた体制作りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応できるように、はつね独自の緊急マニュアルを作成し準備に備えている。応急手当に関しては、法人で行っている学習会に参加している。防災訓練時にAEDの使い方を入居者と共に講習する機会を設けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施し、消防署より指導を受けている。水害対策のマニュアルを作成している。子どものいる家庭・独居のお年寄り世帯が町内にはあるので、お互いが助けに助け合えるように、町内との交流で顔を覚えて貰っている。	年2回昼夜を想定した避難誘導の訓練を建物全体で行っています。消防署からは2回の訓練や運営推進会議にも参加がありアドバイスをもらいつつ、通報や消火、AEDの使用方法等について近隣の参加を得て訓練を行っています。また、地域の防災訓練にも利用者も一緒に参加しています。	

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者のいる場所では他人との関係を考慮した声掛けをするようにしている。トイレ時など、羞恥心がある内容に関しても声掛けに工夫をしている。各々のお部屋に入る際にも、声をかけてから入るなどプライバシーに気をつけている。	法人による接遇研修が新人や現任職員など段階に応じて行われ、受講するとともに事業所で伝達しています。限られた空間での生活であるという意識をもって、さりげない声掛けやプライバシーへの配慮などを日々話し合い、注意を促しています。不適切な言動があればその場で互いに注意し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけゆとりを持って対応し、自己決定していただけるよう心掛けている。入浴時の衣類選択、時折おやつの味を選択してもらったりと意識はしているが、職員が決めてしまっていることも否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士で指摘し合いながら気を付けてはいるが、体制上合わせてもらっている日があることは否めない。お昼寝や作業など希望に沿った支援を心掛けてはいるが、まだまだ検討の余地あり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、希望に応じて訪問美容も活用している。TPOに合わせてくれる、出来る限り好みの色や柄に配慮している。しかし、お化粧してもらうまでには至っていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じて作業工程を配慮、皮むき、切る、炒める、味付け、盛り付けをしてもらっている。食べられないものには代替で対応。出来る限り、好きな物・嫌いな物を意識しメニュー作りをしている。	食べることを大切に考えて支援し、翌日分の献立を利用者の声を聴きながら立て、毎日買い物に出かけています。野菜を切ったり得意料理を準備から行う利用者もおり、職員がアドバイスをもらうこともあります。外食や出前を取るなど希望に応じ、食べることを楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量には特に気を付け、嗜好に合わせた飲み物の提供を行っている。食事についても、食べられる物を時間に拘らず提供し栄養士から助言してもらっている。また、水分・食事表を作成し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えている方は2名のみ。歯磨きがご自分で行えない方、磨き残しによる口腔内トラブルがある方には職員で対応している。ご希望に応じて、歯科往診も介入してもらっている。誤嚥性肺炎を防ぐためにも、毎食後のケアを心がけていきたい。		

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	足の拘縮・身体的負荷の軽減のため一名オムツ交換で対応しているが、その他の方はトイレ使用。排泄表にて排尿パターンを把握し、トイレでの自尿に繋げられるようにしている。後屈される方に、クッション使用し腹圧がかかるように工夫している。	利用者の排泄時のサインを見極め、声掛けや誘導で失敗を無くすように心がけています。パッドのサイズを変えるなど、失敗を減らす工夫をする中で皮膚の改善に繋がる事例もあり、利用者の精神的な安寧が得られるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂ってもらったり、毎朝ヨーグルトを摂取、出来る方には運動してもらっている。糖分にオリゴ糖を用いたり、氷水の提供など、薬だけに頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が良いなど、希望に対し出来る限り対応している。皮膚疾患や排泄にて汚染があった方など、不快感軽減を目指し状態に応じて臨機応変に対応している。夜間入浴が現在実施できておらず、選択の幅を広げたい。	毎日入浴準備を行い、午後からを基本に2日に1回は入浴してもらうようにしています。朝からシャワーなど必要に応じて対応し、希望があれば夜間の入浴にも対応する意向にあります。ミカンや柚子など季節湯にして楽しんでもらっています。拒否傾向にある方は声掛けに工夫を重ね、入浴につながるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに応じて援助している。また、リズムが崩れないよう日中の活動を工夫したり、負担軽減のために休息の時間も状態に応じ取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用について、概ね理解している。確実に内服介助が出来るよう、薬箱、薬セットの徹底と共に、薬のリスト表、薬手帳を更新して確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の得意分野・趣味を活かせるよう、情報を元にアプローチしている。買い物に出掛けた際には、欲しい物を選んでもらったり(飴・ジュース・パンなど)、外出・料理などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い出し、散歩で日々外出の機会を設けている他、コンサートや個別での喫茶外出・ご家族を巻き込んでの植物園外出や一泊旅行など意欲的に取り組んでいる。ご家族との外出が円滑に出来るよう、お手伝いもしている。	日々の散歩や、近隣の商店での買い物、地域行事への参加など出かける機会を多くもっています。毎月行われる地域の消防と警察の演奏会への参加や、季節の花見や紅葉見物など多彩に出かけています。家族や大学のボランティアなどの援助で出かける一泊旅行などが行われています。	

グループホーム はつね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金銭管理されているのは2名。その他の方は、金庫にて預かっている。しかし、いつでも自由に使えるようにしている。所持はしてもらっていないが、外出時は職員が支払い、お金を使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話したり年賀状作りを手伝うことはあるが、入居者自ら電話をしたり、手紙のやり取りをすることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔にしている。物音や室温にも配慮し、こまめに換気も行っている。また、大きな音や音が重複しての混乱を招かないよう留意している。花を飾り季節感を出す、寛げる照明配置など、居心地の良い空間づくりに努めている。	日々利用者とともに掃除機や拭き掃除などを行い、清潔な事業所づくりを心掛けています。テレビをつけたままにしないようにし、日に一度は窓を開放して空気を入れ替えています。季節の飾り物や利用者の手による作品、鏡台や昔のミシンを置くなど、くつろぎの空間づくりを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間が小さく、工夫はしているが満足には至っていない。しかし、テレビ前に大きなソファを設置することで、一人で静かに過ごしたり、テーブル席で馴染の方と過ごす等、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅から持って来られた調度品をそのまま使用してもらっている。また、家族を近くに感じられるよう、ご家族に相談し写真を飾ってもらったりと、家族を巻き込んだ居室環境作りを行っている。	各居室の出入り口は障子戸になっており、畳とフローリングの部屋があります。利用者が今迄使用していたタンスや鏡台、籐の椅子などを安心して過ごせるよう家族と相談しながら配置しています。写真を飾ったり縫いぐるみ等を置き、居心地の良い居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを玄関前やトイレ横、居室前に設置。風呂場も皆が使用しやすいよう改修を行った。家具の配置を工夫することで、転倒を回避するなど、職員・ご家族・ご本人含め検討を重ねている。		